

(様式第1号)

平成30年 月 日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : 認知症に関する領域

科 目 名 : 認知症のある人への生活支援・連携

単 位 数 : 2単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 一般社団法人三重県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒514-0003

三重県津市桜橋2-131 三重県社会福祉会館2階

電話 : 059-264-7741

FAX : 059-264-7742

E-mail : mie\_kaifuku@ybb.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (一社) 三重県介護福祉士会 印

申請責任者 : 大田 京子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書(別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 \_\_\_\_\_

(※は記入しないでください)

### 認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成 29 年 月 日
申請団体名	一般社団法人 三重県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 大田 京子
申請責任者職名	三重県介護福祉士会 研修担当
申請責任者氏名	森 聖志
団体住所	〒514-0003 三重県津市桜橋 2-131
同 Tel・Fax	Tel : (059)-(264)-(7741)
メールアドレス	Fax : (059)-(264)-(7742) E-mail:mie_kaifuku@ybb.ne.jp
申請対象の領域	領域名 : 心理・社会的支援に関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 認知症のある人への生活支援・連携 (2単位)
申請する研修名	
研修認証実績	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
その他特記事項	

別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	認知症に関する領域	
科目名	認知症のある人への生活支援・連携	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症のある人が地域において自立した生活を営めるように実践的な知識と技術を獲得させるとともに、他の介護職への指導及び認知症のある人を取り巻く環境を形成する他職種や地域との連携を通じて支援していける力を育成する。</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症に関する生活支援に必要な医療的な知識を習得し、他者に説明できる。</li> <li>認知症の生活支援に必要な知識・技術を習得し、実践できる。</li> <li>認知症におけるリハビリテーションの重要性を理解し、他者に説明できる。</li> <li>認知症支援に関する社会制度、政策等を理解し説明できる。</li> <li>認知症のBPSDを理解し、より良い対応ができる。</li> <li>症状や使用している薬等~利用者の状態を分析し、適時・適切なケア方法や医療等の他職種連携の必要性について判断できる。</li> </ul>	
研修内容 (研修プログラム)	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症 (MCI, アルツハイマー病の認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、若年性認知症等) について</li> <li>・その機序、主な症状、生理的要因、診断・治療、経過・予後、よく使われる薬、生活上の留意点</li> <li>○認知症の生活支援に必要な知識・技術 (リハビリテーションを含む)</li> <li>・疾患別、ステージ別アプローチ</li> <li>・パーソンセンタードケア等の理解</li> </ul>	<p>含むべきキーワード</p> <p>認知症の定義、症状、診断・経過・予後、薬理作用、認知症状 (中核症状)、行動・心理症状 (BPSD)、疾患別ケア、ステージ別アプローチ、生活支援の留意点、パーソンセンタードケア、新オレンジプラン (認知症初期集中支援チーム、認知症ケアパス等)、認知症のアセスメント、観察・記録・情報共有のポイント、他職種連携、認知症予防、認知症リハ</p> <p>考えられる展開</p> <p>○集合研修 (講義) と演習によって研修を展開する。</p> <p>○演習では疾患、経過と予後、薬理作用、生活支援の留意点、他職種との情報共有のあり方について学習する。</p> <p>○他職種との情報共有については、介護職と各専門職それぞれのアセスメントや計画作成の視点等の相違が理解できるよ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境調整</li> <li>・ BPSD に対応できるより良いケアの理解</li> <li>・ 家族介護者への支援</li> <li>○ 認知症支援に関する社会制度等</li> <li>○ 他職種連携等の基礎な知識</li> <li>・ 認知症に関するアセスメントツール (DASC-21、Zarit8、DBD13、HDS-R)</li> <li>・ 医療職との連携</li> <li>・ リハ職との連携</li> </ul>	<p>うに展開する。(薬の知識習得・日常の健康管理を学ぶ際の視点として含める) ○事例を交えながら、介護場面がイメージできるよう工夫する。</p> <p>●筆記試験 (50問程度)</p>
<p>研修方法</p>	<p>■集合研修 ■課題学習</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○集合研修講義と課題学習を組み合わせる。 ○課題学習は、</p>	
<p>研修時間</p>	<p>30 時間 (集合研修 15 時間、課題学習 15 時間 )</p>	
<p>修了要件</p>	<p>○全課程出席を要する。やむを得ない事情「公共交通機関等の影響、冠婚葬祭等」による遅刻、早退については10分を上限として認める。集合研修に関しては、10分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。</p> <p>○筆記試験は50問程度とし、A～C評価(100点満点中60点以上)を合格とする。D評価(59点以下)の場合は、再試験を行い、A～C評価になったものが「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ」が受講できる。やむを得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。やむを得ない事情による欠席があった場合には別途試験日を設定する。再試験は複数回の受験を可能とする。</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない。</p>	
<p>講師要件 (講師の選定基準)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること</li> <li>・ 修士課程を修了している事が望ましい</li> <li>・ 在宅支援の経験がある医師または看護師が望ましい 医師：大学講師以上または学会認定専門医以上が望ましい</li> </ul>	

	看護師：大学講師以上または「認定看護師」以上の資格を所持していることが望ましい
(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	・特になし
修了評価	修了評価は以下により行う。 ①出席状況が修了要件を満たしていること。 ②筆記試験（50問程度）により行う。100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価とする。A～C（100点満点中60点以上）を修了とする。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名
開催場所（都道府県）	三重県社会福祉会館（三重県津市桜橋 2-131）

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

### 認証申請する研修の実施体制等（届出事項）

(1)研修の実施予定	
実施日	①
	②
	③
開催場所（会場）	① 三重県社会福祉会館（三重県津市）
	②
(2)講師	
担当、氏名及び略歴	○認知症のある人への生活支援（2単位）
	担当する講師

(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会（常勤：1名、非常勤：6名） 実行委員会事務局（担当事務局員、常勤2名） 研修実行委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。また、できる限り研修実行委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	三重県介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	大田 京子
機構問合先部署	三重県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	森 聖志
機構問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
機構問合先 e-mail アドレス	<a href="mailto:mie_kaifuku@ybb.ne.jp">mie_kaifuku@ybb.ne.jp</a>
受講問合先部署	三重県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	森 聖志
受講問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
受講問合先 e-mail アドレス	<a href="mailto:mie_kaifuku@ybb.ne.jp">mie_kaifuku@ybb.ne.jp</a>
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	三重県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	大田京子（会長）
管理担当者氏名	長谷川千恵子（担当の事務局員）



## 別紙1

## 認定介護福祉士養成研修時間割表

領域：認知症に関する領域

科目名：認知症のある人への生活支援・連携

(1日目) 平成30年4月15日

区分	科目名	時間	内容
	受付	9:00～9:30	
1・2	1・認知症について	9:30～12:40 途中10分休憩	<p><b>(講義)</b></p> <p>認知症の病態生理と臨床診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の疫学、定義、用語について理解を深める</li> <li>・認知症で認められる認知機能障害および認知症の行動・心理症状(BPSD)について理解を深める。</li> <li>・認知症や類似した精神神経疾患の症状と病態、および検査方法について理解を深める。</li> </ul> <p>○認知症をきたす疾患と治療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症治療の概要と、非薬物療法及び薬物療法について理解を深める。</li> <li>・認知症や認知証様の症状をきたす疾患の特徴と治療について理解を深める。</li> </ul>
	休憩	12:40～13:40	
3・4	2・認知症の生活支援に必要な知識・技術	13:40～16:50 途中10分休憩	<p><b>(講義)</b></p> <p>○認知症の発症からエンドオブライフに対応した症状マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の発症からエンドオブライフに対応し、認知症の人が継続した生活を送ることができるようにマネジメントできる。</li> </ul> <p>○パーソンセンタードケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人を全人的にとらえる視点を養うとともに、その人の健康と尊厳ある生活を支援するために必要とされる認知症ケアの専門性と役割について理解を深める。</li> </ul> <p>○生活・療養環境に求められるケアマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人にとっての環境の意味を理解したうえで認知症の特性をふまえた生活・治療環境の調整方法について理解を深める。</li> </ul> <p>○認知症の人の生活機能に焦点をあてたアセスメントとケア。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人の生活に支障をきたしている誘因・要因を分析し、生活機能の維持・向上に向けたケア計画を立案する。</li> <li>・生活機能に焦点をあてた生活支援について理解を深める。</li> </ul> <p>○認知症の行動・心理症状(BPSD)のアセスメントとケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の行動・心理症状(BPSD)を悪化させる要因・誘因に働きかけ、予防・緩和する方策について理解を深める。</li> </ul> <p>○認知症の人の家族支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人と家族に対する支援の方策について理解を深める。</li> </ul>

(2日目) 平成30年4月22日

区分	科目名	時間	内容
	受付	9:00~9:30	
1・2	3 認知症支援に関する社会制度  ○認知症支援に関する社会制度等	9:30~12:40 途中10分休憩	<b>(講義)</b> ○認知症の人と家族を支えるための諸制度と社会資源 ・認知症の人と家族を支えるための諸制度と社会資源について理解を深める。 ○認知症ケアにおける組織内外の連携 ・認知症ケアにおける組織内外の連携を推進するための方策について理解を深める。 ○認知症に関するアセスメントツール ・認知症の人と家族を把握するうえで必要なアセスメントツールを理解し、組織内外の連携に活用できる。 ○認知症ケアにおける情報共有 ・認知症ケアにおける観察・記録のポイントを理解したうえで、認知症の人が継続した生活を送れるように情報共有ができる。
	休憩	12:40~13:40	
3・4	事例学習① 「独居の経度認知症高齢者」  事例学習② 「BPSDの強い高齢者」  事例学習③ 「介護負担感が強い家族」  事例学習④ 「他職種連携」	13:40~15:40	<b>(講義と演習)</b>  例事例紹介 グループワーク 講義 事例の考え方のポイント